場所　宮崎県えびの市

面積　203.23ha



活動目的

貴重な水資源や生物を次世代に残すこと、そして地域住民（特に子供たち）が自然に触れ、森の大切さやそこに住む生き物について知ることで、郷土愛を育み、誇りを醸成することを目的とする。

サイト概要

本サイトは、宮崎県えびの市の東部、飯野地区にある森林で、近くには薩摩藩の勇将 島津義弘公の居城である飯野城（亀城）跡があることから、通称「城山」と呼ばれ、古くから地域の人々に親しまれてきた標高658mの里山である。コカ･コーラ ボトラーズジャパン えびの工場の水源域のひとつでもあることから、2014年より保全協定を締結し、年間を通じた保全活動への支援を行うことで、水源涵養林として高い機能を持つ森林に育つとともに、竹林整備や獣害被害防止対策を施すことで、市の特産品であるタケノコの収穫を地元民が継続できる環境を保っている。毎年春には、地域住民や企業の社員・家族が参加し、タケノコ収穫体験や森の散策など、里山を体験できる取り組みも継続している。

土地利用の変遷

経済林として国から払い下げを受け、麓共有林として明治30年に88人の株主で創設した歴史ある共有林。スギ･ヒノキの植栽・育林のほか、屋根材としての竹活用やタケノコ収穫、炭窯での炭づくりなど、この里山は人々の暮らしを支えてきた。近年、木材価格の低下、株主の高齢化や補助金の減少などで、手つかずの森林面積が増えたが、平成26年に、宮崎県と西諸地区森林組合、麓共有林とコカ･コーラボトラーズ社の４者で森林の保全協定を締結し、多面的機能を果たす健全な森林を育成・維持している。

サイト周辺の環境

えびの市は古くから米どころとして知られ、サイトの南に広がる田園地帯で収穫された米は、食味ランキングで最高評価「特A」を獲得しています。また、田園周辺の山々は、昔から良質な建築材が得らる山林で、白鳥神社産のアカマツ巨木が東大寺の梁に使われている事でも有名。

アピールポイント

本サイトは、経済林のスギ、ヒノキ、生産目的の竹だけでなく、ケヤキやクヌギ、イチイガシなどの広葉樹（自然林を含む）など、エリアによって様々な役割を担う昔ながらの里山です。水源涵養地の山林として保全活動をすると共に、この里山森林をより多くの地域住民に知っていただくための活動として、森に学ぼうプロジェクトを実施し、これまでに延べ約６７０名が参加しています（コロナ禍は中止）。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは典型的な里地里山であり、中腹から山頂にかけては広葉樹の二次林が多く存在し、広葉樹林帯として形成されており、標高や沢筋等、立地によって異なる優占種で個体群を形成している。その面積は34.35haに及ぶ。サイト下腹部には整備を続けている竹林があり、古くから自宅の屋根材としての竹利用や、食料としてのタケノコ生産・収穫が継続され、現在では市場で高級食材として流通している。

【主な植生】

植生自然度：８／広葉樹の二次林のほか、サイト内にはマタケやモウソウチクなど2.4haの竹林があり、地元民による竹林伐採を定期的に行い、広葉樹林に竹が侵食しないよう山林保全整備を行っている。

【確認された主な動植物など】

サイト内には広葉樹の二次林竹林が存在し、竹林の林床には、多くのサワガニが生息している。また、沢にはカワニナも生息しており、夏には天然生のホタル類を見る事ができる。
現時点では、植物56種（ノアザミ、キランソウなど）、哺乳類6種（ニホンノウサギ、ニホンアナグマなど）、鳥類9種（コシジロヤマドリ、メジロなど）、両生類4種（トノサマガエル、ヌマガエルなど）、甲殻類1種（サワガニ）、昆虫類14種（ミヤマサナエ、コノシメトンボなど）が確認されている。



写真の説明：山腹付近の落葉広葉樹林



写真の説明：竹林

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは里地里山として古くから活用され、人と生き物が暮らす健全な環境が保たれており、季節の山菜を採取することができる。そうした環境下に、サワガニ、ヌマガエル等の両生類や、上空高く飛ぶトビや山林の奥からアオバトの鳴き声も聞こえてくる。沢や湿地には、イトトンボが飛び交う。弊社では、そうした里山を体験学習できるように「森に学ぼう」プロジェクトin宮崎えびの　を開催している。

【主な植生】

主に山麓の植生
・スギ・ヒノキ・サワラ植林、クサギ－アカメガシワ群落、クヌギ植林、クスノキ植林、モウソウチク林
マダケ・ハチク林、ワラビ群落

【確認された主な動植物など】

現時点では、植物56種（ノアザミ、キランソウなど）、哺乳類6種（ニホンノウサギ、ニホンアナグマなど）、鳥類11種（コシジロヤマドリ、メジロなど）、両生類4種（トノサマガエル、ヌマガエルなど）、甲殻類1種（サワガニ）、昆虫類14種（ミヤマサナエ、コノシメトンボなど）が確認されている。



写真の説明：葉が展開したワラビの群生



写真の説明：林道に現れたヌマガエル

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
＜活動目的＞ 貴重な水資源や生物を次世代に残すこと、そして地域住民（特に子供たち）が自然に触れ、森の大切さやそこに住む生き物について知ることで、郷土愛を育み、誇りを醸成することを目的としている。 ＜活動内容＞ ①二次林ゾーンは、経済林としての利活用とともに、貴重な水資源を育む健全な森林としての保全・整備を行う。 ・植栽用の苗木の調達および植栽・主伐、新植、下草刈、除伐、保育間伐 ・主伐地内の作業道路の開設・補修・大雨後の荒廃林道の保全・整備 ②竹林ゾーンは、特産品であるタケノコの生産のほか、一般参加者を招いたイベント会場として活用する。 ・竹林整備（間伐・粉砕処理） ・新植地やタケノコ収穫エリアへのやイノシシ等の侵入防止柵設置 ・年1回、地域住民やコカ･コーラボトラーズジャパンの社員と家族を招いた環境イベントを開催。 ③自然ゾーンは、基本的に自然の成り行きにまかせ、人為的な介入は行わない。今後調査を進め、ゆくゆくは大学の卒論研究場所としての活用や一般の方を招いた観察会等も実施していく。 ＜実施体制、計画の点検・見直し＞ 麓共有林が日常的な利活用や管理を行い、コカ･コーラボトラーズジャパンより委託を受けた西諸地区森林組合が保全整備を計画・実行。生物調査は地元大学等が参画し、モニタリング調査を進めていく。	**【モニタリング対象】** 最初に、サイト内の各群落、生息動物、昆虫類、鳥類等の網羅的な生態調査。 調査後、モニタリング調査にふさわしい定点箇所の選定。 **【モニタリング場所】** 竹林に生息するサワガニ調査 山腹から山頂における広葉樹（自然林） **【モニタリング手法】** 植生：コドラート調査法による更新調査 動物：定点カメラ設置による動物行動の調査 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 植生調査：年2回のコドラート内の更新調査 動物行動：月１回の定点カメラ撮影カメラデータ確認分析 **【モニタリング実施体制】** 地元大学や専門家の協力を得ながら実施。